

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 11-082028

(43)Date of publication of application : 26.03.1999

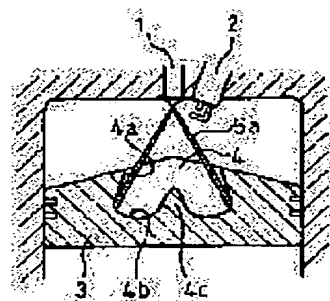
(51)Int.Cl. F02B 23/10
F02F 3/26
F02M 61/14

(21)Application number : 09-235180 (71)Applicant : TOYOTA MOTOR CORP
(22)Date of filing : 29.08.1997 (72)Inventor : HOKUTOU HIROYUKI
KANDA MUTSUMI
KASHIWAKURA TOSHIMI
HATTORI FUMIAKI
TOMOTA AKITOSHI

(54) CYLINDER INJECTION TYPE SPARK IGNITION INTERNAL COMBUSTION ENGINE**(57)Abstract:**

PROBLEM TO BE SOLVED: To form excellent uniform combustion air-fuel mixture at the time of the uniform combustion, and excellent stratified charge combustion air-fuel mixture at the time of the stratified charge combustion in a cylinder injection type spark ignition internal combustion engine which is operated by switching uniform combustion by the fuel injection of an intake stroke, and the stratified charge combustion by the fuel injection at the final stage of a compression stroke to each other according to the operating condition of an engine.

SOLUTION: A fuel injection valve 1 injects fuel in a roughly hollow cone shape from the upper part of a combustion chamber, and the vertical component of the penetration force of the fuel injected is larger than its horizontal element, and a cavity 4 is formed at the top surface of a piston 3. The cavity 4 involves a peripheral wall surface 4a of roughly cylindrical shape, a bottom wall surface 4b connected smoothly to the peripheral wall surface 4a, and a swelling part 4c of roughly cone shape connected smoothly to the bottom wall surface 4b. The peripheral wall surface 4a of the cavity 4 is formed so that most of the fuel of roughly hollow cone shape injected from the fuel injection valve 1 collides at an acute angle at the final stage of a compressed stroke, and an ignition plug 2 is disposed in the vicinity of just above the swelling part of the cavity 4.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 09.05.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 07.05.2002

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-82028

(43) 公開日 平成11年(1999) 3月26日

(51) Int.Cl.⁶
 F 0 2 B 23/10
 F 0 2 F 3/26
 F 0 2 M 61/14

識別記号
 3 1 0

F I
 F 0 2 B 23/10
 F 0 2 F 3/26
 F 0 2 M 61/14

D
 M
 A
 3 1 0 S

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平9-235180

(22) 出願日 平成9年(1997) 8月29日

(71) 出願人 000003207

トヨタ自動車株式会社

愛知県豊田市トヨタ町1番地

(72) 発明者 北東 宏之

愛知県豊田市トヨタ町1番地 トヨタ自動車株式会社内

(72) 発明者 神田 睦美

愛知県豊田市トヨタ町1番地 トヨタ自動車株式会社内

(72) 発明者 柏倉 利美

愛知県豊田市トヨタ町1番地 トヨタ自動車株式会社内

(74) 代理人 弁理士 石田 敬 (外3名)

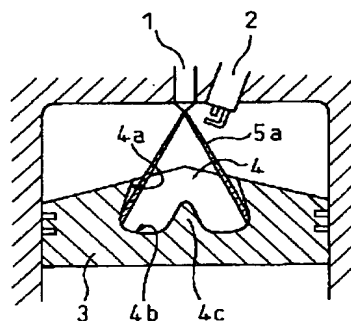
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 筒内噴射式火花点火内燃機関

(57) 【要約】

【課題】 機関運転状態によって、吸気行程の燃料噴射による均一燃焼と、圧縮行程末期の燃料噴射による成層燃焼とが切り換えられて実施される筒内噴射式火花点火内燃機関において、均一燃焼時における良好な均一燃焼混合気と、成層燃焼時における良好な成層燃焼混合気とを形成可能とすること。

【解決手段】 燃料噴射弁1は、燃焼室上部から略中空円錐状に燃料を噴射するものであり、噴射される燃料の貫徹力の垂直成分は水平成分より大きく、ピストン3頂面にはキャビティ4が形成され、キャビティは、略円筒状の周壁面4aと、周壁面に滑らかに接続された底壁面4bと、底壁面に滑らかに接続された略円錐状の隆起部4cとを有し、キャビティの周壁面は、圧縮行程末期において、燃料噴射弁から噴射された略中空円錐状の燃料の大部分が鋭角に衝突するように形成され、点火プラグ2は、キャビティの隆起部の真上近傍に配置されている。



1…燃料噴射弁
 2…点火プラグ
 3…ピストン
 4…キャビティ
 4a…側面
 4b…底面
 4c…隆起部

【特許請求の範囲】

【請求項1】 点火プラグと、気筒内へ直接的に燃料を噴射する燃料噴射弁とを具備し、機関運転状態によって、吸気行程の燃料噴射による均一燃焼と、圧縮行程末期の燃料噴射による成層燃焼とが切り換えられて実施される筒内噴射式火花点火内燃機関において、前記燃料噴射弁は、燃焼室上部から略中空円錐状に燃料を噴射するものであり、前記燃料噴射弁から噴射される前記燃料の貫徹力の垂直成分は水平成分より大きく、前記ピストン頂面にはキャビティが形成され、前記キャビティは、略円筒状の周壁面と、前記周壁面に滑らかに接続された底壁面と、前記底壁面に滑らかに接続された略円錐状の隆起部とを有し、前記キャビティの前記周壁面は、前記圧縮行程末期において、前記燃料噴射弁から噴射された前記略中空円錐状の燃料の大部分が鋭角に衝突するように形成され、前記点火プラグは、前記キャビティの前記隆起部の真上近傍に配置されていることを特徴とする筒内噴射式火花点火内燃機関。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、筒内噴射式火花点火内燃機関に関する。

【0002】

【従来の技術】特開平1-203613号公報には、機関低負荷時には圧縮行程末期で燃料を噴射して低燃費の成層燃焼を実施し、機関高負荷時には吸気行程で燃料を噴射して高出力が得られる均一燃焼を実施する筒内噴射式火花点火内燃機関が開示されている。

【0003】圧縮行程末期の燃料噴射は、上死点近傍のピストンに対してピストン頂面に形成されたキャビティ内に燃料を噴射するものである。こうして噴射された燃料は、ピストンの熱によって気化しながらキャビティの底壁面を点火プラグ方向へ進行し、点火時点において点火プラグ近傍に集中するようになっている。一方、吸気行程で噴射される燃料は、流入する吸気流によって拡散及び気化され、点火までの比較的長い時間で十分に均一混合されることが意図されている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】この内燃機関において、燃料噴射弁は燃焼室上壁の周囲部分における吸気ポート側に配置されている。この燃料噴射弁の燃料噴射中心方向は、吸気行程燃料噴射において、ピストンが下死点近傍に位置する時にも、噴射された燃料がシリンダボアに衝突してエンジンオイルを希釈させないように、比較的垂直に近いものとされている。機関高負荷時に良好な均一混合気を形成するためには、燃料は燃料噴射弁から円錐状に貫徹力を弱めて噴射されることが好ましい。しかしながら、このような燃料噴射では、圧縮行程の燃料噴射において、燃料の貫徹力自身が弱いことに加えて、この貫徹力の水平成分が小さいために、キャビティ

内に噴射された燃料は、キャビティの底壁面を点火プラグ方向へ意図するように進行しない。それにより、この内燃機関における燃料噴射弁は、良好な成層燃焼を実現するために、ある程度の貫徹力を燃料に与えるよう柱状に近い中実円錐状に燃料を噴射するようになっており、吸気行程燃料噴射における良好な均一混合気形成は犠牲にされている。

【0005】従って、本発明の目的は、均一燃焼時における良好な均一燃焼混合気と、成層燃焼時における良好な成層燃焼混合気とを形成可能な筒内噴射式火花点火内燃機関を提供することである。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明による請求項1に記載の筒内噴射式火花点火内燃機関は、点火プラグと、気筒内へ直接的に燃料を噴射する燃料噴射弁とを具備し、機関運転状態によって、吸気行程の燃料噴射による均一燃焼と、圧縮行程末期の燃料噴射による成層燃焼とが切り換えられて実施される筒内噴射式火花点火内燃機関において、前記燃料噴射弁は、燃焼室上部から略中空円錐状に燃料を噴射するものであり、前記燃料噴射弁から噴射される前記燃料の貫徹力の垂直成分は水平成分より大きく、前記ピストン頂面にはキャビティが形成され、前記キャビティは、略円筒状の周壁面と、前記周壁面に滑らかに接続された底壁面と、前記底壁面に滑らかに接続された略円錐状の隆起部とを有し、前記キャビティの周壁面は、前記圧縮行程末期において、前記燃料噴射弁から噴射された前記略中空円錐状の燃料の大部分が鋭角に衝突するように形成され、前記点火プラグは、前記キャビティの前記隆起部の真上近傍に配置されていることを特徴とする。

【0007】

【発明の実施の形態】図1は、本発明による筒内噴射式火花点火内燃機関の実施形態を示す概略縦断面図である。この筒内噴射式火花点火内燃機関は、必要燃料噴射量の少ない機関低負荷時において、圧縮行程末期に燃料を噴射して点火プラグ近傍にだけ混合気を形成することにより、全体的にリーンな燃焼を可能とする低燃費の成層燃焼をを実施するようになっている。また、必要燃料噴射量が多くなる機関高負荷時には、圧縮行程末期に全燃料を噴射することが時間的に厳しくなるために、吸気行程において全燃料が噴射され、点火までに均一混合気を形成し、高出力が得られる均一燃焼を実施するようになっている。もちろん、圧縮行程末期に、所定燃料量だけを噴射し、必要燃料噴射量の残りを吸気行程に噴射するようにしても良い。

【0008】図1において、1は燃焼室上部の略中心に位置する燃料噴射弁である。2は燃料噴射弁1の近傍に配置された点火プラグであり、3はピストンである。この燃料噴射弁は、液相燃料5aを略中空円錐状に噴射するものであり、その噴射中心方向はほぼ垂直方向とさ

れ、噴射される燃料の貫徹力の垂直成分が水平成分より大きくされている。中空円錐状に噴射される燃料は、貫徹力が弱く、吸気行程燃料噴射において、吸気流によって容易に微粒化される。さらに、中空円錐状に噴射される燃料は、内側にも吸気が存在するために、吸気との接触面積が非常に大きくなり、飛行中に吸気から十分な熱が与えられ良好に気化すると共に、吸気の冷却効果により吸気充填効率が向上する。また、少量の燃料が気化せずにピストン3頂面に付着しても、このような少量の燃料はピストン3の熱によって容易に気化する。

【0009】こうして気化した燃料は、点火時点において、吸気と十分に均一混合されて良好な均一混合気を形成し、機関高負荷時の良好な均一燃焼を実現することができる。また、かなり多量の燃料を噴射する場合において、燃料噴射終了時にはピストン3は下死点近傍となるが、燃料噴射弁1は、燃焼室上部の略中心からほぼ垂直方向に燃料を噴射するものであり、燃料噴射形状が円錐状であっても、噴射された燃料がシリンダボア付着することはなく、この付着燃料がエンジンオイルを希釈させたり、この希釈分によって燃料噴射量が不足することは防止される。

【0010】一方、機関低負荷時の成層燃焼は、圧縮行程末期に燃料噴射弁1から必要燃料噴射量が噴射される。図1は、圧縮行程末期における燃料噴射開始後の状態を示している。ピストン3の頂面略中央部には、キャビティ4が形成されている。このキャビティ4は、略円筒状の周壁面4aと、周壁面4aに滑らかに接続された底壁面4bと、底壁面4bの略中央に位置して底壁面4bに滑らかに接続された略円錐状の隆起部4cとを有している。キャビティ4の周壁面4aは、圧縮行程末期に燃料噴射弁から噴射された中空円錐状の液相燃料5aの大部分が鋭角に衝突するように形成されている。それにより、中空円錐状に噴射される液相燃料5aの貫徹力は弱い、この貫徹力は主に垂直成分からなるために、キャビティ4の周壁面4aに衝突する液相燃料5aは、十分にこの貫徹力が生かされて周壁面4aに沿って底壁面4b方向に進行する。本実施形態では、中空円錐状の燃料との衝突角度を小さくして衝突の際の燃料の貫徹力の減衰を最小限とするために、キャビティ4の周壁面4aは、切頭円錐側面の形状とされている。

【0011】図2は、圧縮行程末期の燃料噴射が終了した時の状態を示している。同図に示すように、キャビティ4の周壁面4aに沿って進行する液相燃料5aは、キャビティ4の底壁面4bへ進行し、次いで、隆起部4cに沿って集中しながら上昇する。キャビティ4の周壁面4aと底壁面4bとは円弧状に滑らかに接続され、また、キャビティの底壁面4bと隆起部4cとは円弧状に滑らかに接続されているために、液相燃料5aは、貫徹力があまり減衰されることなく、良好に隆起部4cを上昇することができる。こうして、液相燃料5aは、キャ

ビティ4内を進行するが、進行中にピストン3の熱によって徐々に気化され、隆起部4cの上部に達する時には完全に気相燃料5bとなっている。

【0012】図3は、成層燃料の点火時期の状態を示している。同図に示すように、点火時期では、圧縮行程末期に噴射された燃料の全てが気相燃料5bとなって隆起部4cの真上近傍に集中して着火性の良好な混合気を形成する。点火プラグ2は、この混合気を着火可能なようにキャビティ4の隆起部4cの真上近傍に配置されており、こうして良好な成層燃焼を実現することができる。

【0013】本実施形態において、燃料噴射弁1の位置を燃焼室上部の略中心としたが、これは本発明を限定するものではなく、燃焼室上部の周囲に配置することも可能である。この場合には、燃料噴射中心方向が垂直に対して多少斜めとなるが、噴射される燃料の貫徹力の垂直成分は水平成分より大きくされる。このように噴射される中空円錐状の燃料の大部分が鋭角に衝突するようにキャビティの周壁面を形成することは可能である。それにより、比較的大きな貫徹力の垂直成分を利用して、燃料をキャビティ内の隆起部へ向けて良好に進行させることができる。キャビティ内の隆起部の位置は、特に底壁面の中央に限定されず、隆起部の真上近傍に点火プラグが配置されていれば良好な成層燃焼を実現することができる。

【0014】

【発明の効果】このように、本発明による請求項1に記載の筒内噴射式火花点火内燃機関によれば、気筒内へ直接的に燃料を噴射するための燃料噴射弁が、燃焼室上部から略中空円錐状に燃料を噴射するために、燃料の貫徹力が弱く、燃料の吸気との接触面積が大きいために、噴射された燃料は良好に気化し、吸気行程噴射によって良好な均一燃焼混合気を形成することができる。また、ピストン頂面には、略円筒状の周壁面と、周壁面に滑らかに接続された底壁面と、底壁面に滑らかに接続された略円錐状の隆起部とを有するキャビティが形成され、キャビティの周壁面に、圧縮行程末期において、燃料噴射弁から噴射された略中空円錐状の燃料の大部分が鋭角に衝突するために、貫徹力自身が弱くても、比較的大きな貫徹力の垂直成分を利用して、燃料は、キャビティの周壁面から滑らかに接続された底壁面へ良好に進行し、さらに、隆起部を集中しながら上昇する。このようなキャビティ内の燃料の進行中に燃料はピストンから熱を与えられ、隆起部を上昇する時にはほぼ気化しており、隆起部の真上近傍に位置する点火プラグ回りに着火性の良好な成層燃焼混合気を形成することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】圧縮行程末期の燃料噴射状態における本発明による筒内噴射式火花点火内燃機関の実施形態を示す概略断面図である。

【図2】圧縮行程末期の燃料噴射終了時における図1と

同様な概略断面図である。

【図 3】 点火時期における図 1 と同様な概略断面図である。

【符号の説明】

1 … 燃料噴射弁

2 … 点火プラグ

* 3 … ピストン

4 … キャビティ

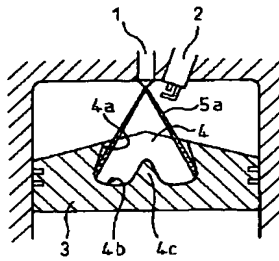
4 a … 周壁面

4 b … 底壁面

4 c … 隆起部

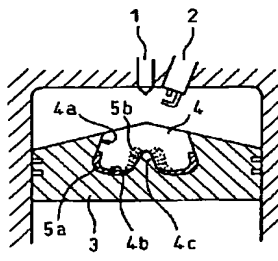
*

【図 1】



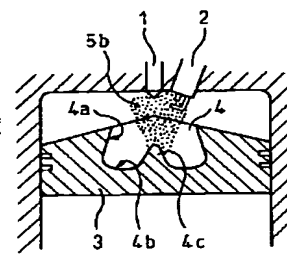
1 … 燃料噴射弁
2 … 点火プラグ
3 … ピストン
4 … キャビティ
4 a … 側面
4 b … 底面
4 c … 隆起部

【図 2】



1 … 燃料噴射弁
2 … 点火プラグ
3 … ピストン
4 … キャビティ
4 a … 側面
4 b … 底面
4 c … 隆起部

【図 3】



1 … 燃料噴射弁
2 … 点火プラグ
3 … ピストン
4 … キャビティ
4 a … 側面
4 b … 底面
4 c … 隆起部

フロントページの続き

(72)発明者 服部 文昭

愛知県豊田市トヨタ町 1 番地 トヨタ自動車株式会社内

(72)発明者 友田 晃利

愛知県豊田市トヨタ町 1 番地 トヨタ自動車株式会社内